モールでえこ便はインパクト大
太陽光パネルの処理工場も開設

でやらないの？と不思議がられていた。えこ便とeポストで集めている古紙が月間四百トンで、繁忙期で六百トンほどある。もともと月間三百トンを超えたら、古紙用の大型ベーラーを導入しようと以前から考えていた」

Q・以前まではどのように販売していた？

「これまでは地元の古紙問屋のミムラさんにバラで降ろしていた。今後は自社の販売力を高める必要もあるが、基本的には国内をメインにこれまで通りミムラさんに販売していきたい。今後輸出するかどうかは現時点では決めていない。幅広い選択肢を持っていきたい」

「古紙ヤードの投資額は三億八千万円で、建物が三億三千万円、ベーラー、自動紐取り機、選別ライン、フォークリフト、ショベル等の機械設備で計五千万円かかった。ずっと鉄スクラップを行ってきたが、古紙ヤードは鉄スクラップヤードの十分の一の投資額で済むことに驚いた。基礎工事も鉄に比べてかなり楽だった」

Q・他社に販売している分もある？

「鳥取県米子市にあるえこ便・安倍局では、月間百トンの古紙を回収している。岡山から米子は遠く、地元の古紙問屋に納品している」

「運送費用とベーラー費用を比較すると、運送用のトラックは現在納車が一年待ちで、価格は一千五百万万円。古紙用ベーラーが四千万円なら、各地にベーラーを設置した方が良いかもしれない。人手不足、人件費と物流費の高騰を考えると、従来の費用対効果の係数が流動化されるので、回収量が少ない地域でもベーラーを置いた方が良いケースも考えられる」

Q・古紙の扱い量は今後増やしていく？

「他の回収業者の仕事を奪うつもりはない。そもそも弊社が扱っている古紙は、えこ便やeポストで回収したものが中心である。つまり扱っている古紙は家庭系。品種は、雑誌・雑がみが五割、新聞が三割、段ボールが二割の比率となっている」

Q・えこ便を開始した目的は？

「えこ便を開始したのが二〇一五年七月。これまでにえこ便で儲けようと思ったことは一度もない。開設当初から話しているが、えこ便の目的は、①違法業者を追放すること、②リサイクルのショールームとしての役割で、PRを行うということ。この二点に尽きる。えこ便の取材は年間二十～三十件ある」

「市民の方々と直接コミュニケーションが取れる機会というのは、最高のPR活動だと考えている。えこ便の影響で会社の知名度は飛躍的に上がった。えこ便で弊社のことを知って、就職を希望してくる人もいる。これまで手の届かなかった層からの応募も増えている」

Q・現在展開しているえこ便は？

「えこ便は現在四局ある。岡山市内に西古松局、並木町局、大安寺局の三ヵ所、鳥取県米子市に安倍局が一ヵ所ある。えこ便のことは局と呼んでおり、他にeポストという無人の拠点回収を五ヵ所で展開している。局が大型の有人回収、ポストが小型の無人回収という位置付けである。会社や学校にeポストを置く構想もある」

Q・今後のえこ便の開設は？

「今年中に岡山県倉敷市内に二ヵ所、えこ便の開設が決まっている。既に土地を購入しており、準備を進めている段階。倉敷市に開設予定の一ヵ所は、ショッピングモール内に展開する。ショッピングモールに新しい物を買いに来るお客さんが、同時にいらなくなったものを捨てることができる。捨てると買うということを両立させる実験的な試みである。将来的には、全国に普及するほどのインパクトがあると考えている。このえこ便の展開案は、ショッピングモール側から誘致された」

Q・えこ便の回収内訳は？

「えこ便で回収している再生資源物のうち、六五％～六九％は古紙が占めている。次いで金属類が一五％、小型家電も一五％。他に古着等」

Q・高齢者もえこ便に来るのか？

「えこ便に資源物を持ってくるには車が必要。車の運転をしないお年寄りに、宅収サービスを、また、人口が少なく、えこ便局を出店できないエリアには移動式えこ便を開始する考えもある。但し宅収サービスも移動式えこ便も展開するには、国や地方自治体の許可が必要になり、現状は許可が下りていない。今後は更に高齢化や過疎化が進むので、大いにニーズがあるだろう」

Q・太陽光パネル工場を開設する？

「今年二月から太陽光パネルの処理工場をテストラインとして開設する。これは今後大量に廃棄が見込まれる太陽光パネルを、どうすれば適正に処理できるか。環境省の指針に乗った太陽光パネルの運用処理スキームを作成していくプロジェクトである」

「太陽光パネルは二〇四〇年には年間で四千万枚が廃棄されるとの試算もある。現在の法律では、処理能力の十四日分しか保管が認められていないが、数万枚が設置されているような大型施設のパネルを短期間で処理する契約は法律上、結べない」

「また処理費用についても、設置者が処理費用を払うわけだが、その資金をためておく基金制度が確立されておらず、将来太陽光パネルを放置するケースが全国で起こるかもしれない。適正なスキームを構築することで、発電事業所や家や

西大寺工場の古紙加工棟でえこ便を開始する予定

こちらはえこ便の一号店の西古松局